

## 勇往邁進

本年度の本校農業クラブの活動テーマ「勇往邁進（ゆうおうまいしん）」。恐れることなく、自分の目的・目標に向かいひたすら前進する。何かに挑戦するとき、失敗は付きもの。失敗しても良いと思います。失敗を恐れることなく、そこから学び挑戦し続けることが大切だと思います。失敗を恐れ、挑戦しないことは最大のリスクであると私は考えます。高校生のいま、感性が豊かで知性にあふれている時こそ計り知れないチャンスがあると思います。子どもたちには是非、本年度のテーマを自分事として心に刻み、大きく成長することを願うばかりです。可能性を秘めた金の卵たちが、必ず真狩村で輝きを放ちます。引き続き、温かなご支援を賜りますようお願いいたします。

※農業クラブとは…全国の農業に関する学科に学ぶ高校生の団体。正式名称は「日本学校農業クラブ連盟(FFJ)」と言う。

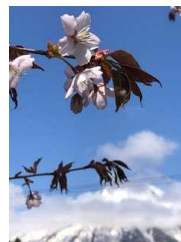
FFJはFuture farmers of Japanの略で明日の日本を担う農業者という意味がある。

「科学性」「社会性」「指導性」を高め、農業はもとより、幅広く産業分野で活躍できる人材となることを目標に活動している。全国でのクラブ員数は8万人以上である。

## 3年生がインターンシップ

関係機関のご協力のもと、34名が一週間のインターンシップを行いました。職業観・勤労観の醸成はもとより、自らの適性把握やマナーの会得など、就職に対するキャリアアップにつながる貴重な体験となりました。

村内でも8つの事業所等へ受け入れをお願いしました。引き続きご理解とご支援をお願いいたします。(校舎から見る桜と羊蹄山) ↑



## 農業クラブ事業：意見発表大会

全国大会へつながる、農業クラブの校内大会を開催しました。

意見発表大会は、農業生産や環境保全・ヒューマンサービスなど、3つの分野に分かれ、それぞれの分野に関する意見を発表する大会です。発表者は日頃の学習で感じた疑問や課題、学びから得た将来の夢など、自分なりの手段で解決、あるいは実現させるためにはどうするかといった、自らの考えを発表するものです。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2・3年生はリモートでの参観となりましたが、緊張感のある非常に良い大会となりました。校内大会を勝ち抜いた3名の子どもたちは、6月17日 静内農業高校を当番校に行われる南北海道大会へ出場（動画を送付）し、全道大会（更別村）・全国大会（兵庫県）への出場を目指します。

## 定体連後志支部大会出場

5月29日、定体連支部大会が行われ、バドミントン部（小樽市）とバスケットボール部（倶知安町）が出場しました。

結果は、バスケットボール部が準優勝、バドミントン部女子が団体優勝及び個人戦で2人（優勝、3位）が全道大会への切符を手に入れました。

先に出場が決定しているバレーボール部も含め、6月19日から旭川市で行われる全道大会へ出場します。緊急事態宣言下ということで練習には様々な制限がありますが、それぞれの部活動では全国大会への出場を目指して一生懸命に取り組んでいます。

次号では、良い結果をご報告できるよう期待しているところです。

## 【 耕心寮について 】



緊急事態宣言を受け、特定措置区域との往來を控えるため、対象期間での週末閉寮を未実施としました。このことにより、対象区域からの寮生は長期間帰宅ができなくなりました。この往來自粛措置により、生徒の健康・安全はもちろんのこと、村内での新型コロナウイルスの感染拡大の未然防止に効果があると考えています。7日からは原則閉寮とし、リモート学習とします。継続開寮では関係各位に大変お世話になっています。感謝申し上げます。



※裏面は、校内意見発表大会結果及び最優秀となった発表原稿です。

【 6月の学校行事 】	
1日(火)	衣替え
2日(水)	前期中間試験① 校内研修
3日(木)	前期中間試験② 寮務委員会
4日(金)	前期中間試験③ 地区別懇談(真狩)
5日(土)	前期中間試験④ 地区別懇談(札幌)
7日(月)	振替休業日
8日(火)	<del>農業クラブサマー</del> 研修会(倶知安農)
11日(金)	定体連全道壮行会
12日(土)	高P連全道(リモート)
15日(火)	<del>寮生サマーキャンプ</del>
16日(水)	校内技術競技大会
17日(木)	農ク南連意見発表 大会～18日(静内)
19日(土)	定体連全道大会
20日(日)	危険物取扱者試験
21日(月)	ガス・アーク講習 製菓スクーリング ～26日まで
22日(火)	宿泊研修結団式
23日(水)	宿泊研修(1年) ～25日まで
27日(日)	英検2次
29日(火)	避難訓練
30日(水)	尿検査2次

## 令和3年度農業クラブ校内意見発表大会結果及び最優秀者発表原稿



最優秀賞

発表者 川西 杏 (かわにし あん) 真狩中学校出身：3年生  
 題目 スイーツから生まれた私の夢

優秀賞

発表者 武田 吏加 (たけだ りか) 札幌市出身：3年生  
 題目 楽しさの発見から広がる未来

優秀賞

発表者 横内 亜美 (よこうち あみ) 恵庭市出身：3年生  
 題目 未来をみすえて

### ○ 発表原稿 (※最優秀者：川西さんの原稿)

10歳の頃。私にお父さんという存在ができ私は農家の娘となりました。現在は真狩村で農家を営んでおり、主にじゃがいも3.5ha、大根3ha、人参2.5haを経営する専業農家です。3月に始まる春人参の収穫では私を含めた親戚一同が加わり、朝から晩までとても忙しくしています。

いつも優しく温かい私の大好きな父。しかし、中学生あたりから私はなぜか父の前では素直になれなくなっていました。「学校楽しかった？」と毎日聞いてくれても「普通。」としか返せない私。そんな私にも父は怒ることなく、「そっか」といつも優しく話しかけてくれるのです。本当は素直に父ともっと話したい。そんな時、母から「お菓子作りが好きなら作ってあげたら？」と言われ、甘いものが大好きな父にケーキを作ることにしました。父は私の作ったケーキを「おいしい！」と喜んで食べてくれました。そんな父の笑顔を見たとき父の仕事である農業と父が大好きなスイーツを合わせて学びたい！と思い、父の出身校でもある真狩高校に入学することを決めました。

真狩高校に入学してからは父のために農業の知識を身に着けるとともに製菓部に入部し、野菜を使ったお菓子作りについても学んでいきました。

そんな中で私は一つの夢を持つようになりしました。それは父が育てた野菜でスイーツを作り自分のお店で販売することです。廃棄や価格低下に頭を悩ませながらも一生懸命野菜と向き合う父の姿を見て少しでも売り上げに貢献したい。と思うようになりしました。父の努力をいろんな形でたくさんの人に届けたい。そんな想いを叶えるための私の目標は、高校生パティシエの甲子園といわれる“パティシエロワイヤル”に参加することです。真狩高校では大豆100粒運動という取り組みが行われており、北海道の在来種である鶴の子大豆の復活と、大豆の全国的な普及を目標としています。私たちの手で育てた大豆を生かしてみたい。その思いから、私は加工しやすく体にもいいとされる豆乳に着目し、豆乳チーズケーキを作ることに決めました。1年目は製菓への知識も浅く、十分なレシピを考えられませんでした。2年目は前回より考案・試作に時間をかけ、人参ムースと層にした豆乳レアチーズタルトに挑戦しました。自信はかなりありましたが、またしても予選すら通過できませんでした。自分の力の無さが情けなくなり、もうやめようかと何度も思いました。けれど悔しさと一緒に心に残ったのは、仲間とに考え、完成させたことの嬉しさでした。夢を叶えたい。最初はただそれだけでしたが、その他にもこの大会に出場したい理由が見つかったのです。

三年目、私はまず入賞できない理由を自己分析してみました。そして一番の原因はその作品である理由は何なのか？というアイデアの根拠が弱いことだと考えました。そのことから今年はさらに時間をかけ、アイデアの土台をしっかりと固めることに重点を置きました。これまでチーズケーキにこだわることにも訳がありました。それは私が初めて父に作ったケーキがチーズケーキだったことです。私の成長を伝えたい。そんな意味でもチーズケーキには深い思い入れがありました。豆乳もチーズケーキも貫きつつ、インパクトが欲しい。そこで私が目を付けたのは真狩食材でした。じゃがいもと人参は真狩村の特産品とされており、そしてさつまいもも現在、真狩村の特産品にしようという動きがみられとても注目されています。また、人参は私の家で主に栽培している野菜の一つでもあります。人参の廃棄率はとても高く、一年の収穫量150tの内多い年では半分が廃棄となることもありました。

“廃棄品をスイーツに変え父を助けたい”人参はそんな私の夢にもぴったりな食材でした。これらの食材から私が考えたのは真狩の特産品をふんだんに使ったベジタブルモンブランでした。人参のスポンジ、じゃがいもムース、レアチーズ、さつまいもモンブランと層にし、人参の鮮やかさを際立たせます。レアチーズとさつまいもモンブランの間には真狩高校で栽培している落花生をローストして砕いたものを挟み、食感と風味にアクセントを加えました。じゃがいもムースには豆乳を加え、互いの味を引き立たせあう分量に調節。食材そのものの甘みや風味に頼ることで砂糖や生クリームを抑えられ、コスト面でも昨年に比べ60%近くカットできました。真狩高校で栽培している食材と村の特産品を使い、真狩らしさを表現。それが真狩村、そして真狩高校のPRにもなると考えました。見た目、味、コスト、アイデア全てにこだわったこの作品。最後のパティシエロワイヤルはもう少し先ですが3年間で身につけた精一杯の知識と技術を振り絞り、私は入賞を目指します。

入学してからの三年間、農業や製菓を学び、いろんな大会に出て父にも近づけた気がしました。あの日私のお菓子を食べて「おいしい」と微笑んでくれた父。たくさんのおいしいを父に届けるために、父にとって自慢の農家の娘になるために、あと少しの高校生活、私はここで製菓を学びます。

「学校楽しかった？」そう毎日聞いてくれる父。

「うん、すごく楽しかった！」

真狩高校でたくさんのおいしいを父に届けるために、父にとって自慢の農家の娘になるために、あと少しの高校生活、私はここで製菓を学びます。